

個別事業の基本構想（エコプラザ）

		エコプラザ	
整備の意義、目標、あり方		<p>○設置目的「基本理念の実現に向けて、具体的な取組みを進めるための施設」</p> <p>○整備の意義・あり方（市民の行動）</p> <p>「ライフスタイルを変える」①共感性がなければ人間の行動は変わらない（学び合う場と仕組み） ②気づき、学び、コミュニケーション</p> <p>「ごみ減量につなげる」①廃棄物は資源である。 ②ごみ減量化を促してCO2削減、低炭素社会につなげる。 ③ごみを減らすようなライフスタイルに変えていくきっかけ（気づき・学び）をつくる。 ④ごみ問題に全く興味がない人にも目を向けてもらえるようにする。</p> <p>○広範な環境啓発機能の付加（ごみ減量啓発との相乗効果連携▶低炭素社会の実現）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境への関心の高まり▶地球温暖化の影響とみられる異常気象・自然災害の多発など。 ・集客、新たな層への関心の拡大 <ul style="list-style-type: none"> ▶啓発の間口を広げることで、より多くの方が来館する。 ▶ごみ以外の環境に関心を持って来館した方が、ごみの問題にも気づき、関心を持つ。 ・理解・行動の促進▶日常生活と多様な環境とのつながりを知り、理解が深まることで、行動へと結びつく。 ・交流・連携の推進▶市民や多様な環境団体、企業・事業者などがお互いの活動を知り、交流・連携を図る。 <p>○対象</p> <p>「全市民（子ども、主婦層、ごみに興味のない人への働きかけ）」▶全市民的な施設づくり</p>	
基本方針	低炭素社会モデル	<p>「エコロジーや省エネルギーによる低炭素モデルエリアを構築する」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境啓発の拠点 	
	地域力の向上	<p>「学習、雇用、産業、集いなどの機能を導入し、地域の活力の更なる向上に役立てる」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域力を結ぶ核。地域力を集めて、地域力で運営 	
	まちづくりとの連携	<p>「さまざまな上位計画や整備事業と連動し、よりよいまちづくりに貢献する」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観形成への貢献 	
具体的な取り組み		<p>○機能 ⇒【委員意見】</p> <p>「学び（気づき・発見・共感）～環境啓発、ごみから学ぶ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加体験型の講座・講習 ・参加体験型の展示・見学 ・参加者が学びあえる仕組み <p>「創造（3R+アップサイクル）～ごみから新たな価値あるものをつくる」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不用品・廃材の収集・保管・修理・加工 ・リサイクル・アップサイクル品の展示、販売、素材提供 ・修理・リサイクル・アップサイクル系の講座・講習会 ・不用品交換掲示板、かえっこ、フリーマーケット <p>「コミュニケーション（交流・ネットワーク・情報発信）～ごみを媒介に対話」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報誌の発行 ・カフェの運営 ・活動場所の提供・交流スペース ・市民の活動サポート ・困りごとの相談窓口 ・市民や団体のネットワークづくり 	<p>○空間配置 ⇒【委員意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラットホームの有効活用 ・ひとの導線を考えた設計 ・広場との連続性 ・バリアフリー化 ・工房スペースの環境 ・多目的スペース
取り組み方、運営の方針		<p>○運営のあり方 ⇒【委員意見】</p> <p>「全ての市民が利用でき、市民のしたいことをサポート」</p> <p>「人材育成やネットワーク、地域力向上を重視」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民、市民団体、地域とのネットワークを活かす ・他の公共施設との連携 ・福祉・教育分野との連携 ・運営の担い手を育てる ・柔軟な運営形態 	

エコプラザ検討の考え方（資料3）

エコプラザの仕組み（ごみから楽しく学べる場）

全ての取り組みをプロジェクト化

利用者はお客さんでない⇒キャスト

- ・企画から参加する、企画からみんなで考える
- ・自ら企画を運営する
- ・はらっぱ（垣根のないスペース）

エコプラザの体系

エコプラザ

市民

行政

自由に使える場

リーダーシップとなる事業

施設管理

エコプラザの仕組み（ごみから楽しく学べる場）

全ての取り組みをプロジェクト化

具体的なプログラムは？

つなぎ役
⇒一つの専門性+αを持つ人

市民

事業者・企業・団体

行政

「学び(気づき・発見・共感)～環境啓発、ごみから学ぶ」

- ・参加者がごみから学びあえる仕組み
- ・生ごみを堆肥化し、おいしい野菜をつくる
- ・ごみをどうやって生まれ変わるかな？
- ・ごみをテーマにペチャクチャカフェ
- ・
- ・

- 【機能】
- ・参加体験型の講座・講習
 - ・参加体験型の展示・見学
 - ・参加者が学びあえる仕組み

「創造(3R+アップサイクル)～ごみから新たな価値あるものをつくる」

- ・廃棄⇒素材⇒流通
- ・工具がある、素材がある
- ・クリエイティブリユース
- ・アップサイクル
- ・
- ・

- 【機能】
- ・不用品・廃材の収集・保管・修理・加工
 - ・リサイクル・アップサイクル品の展示、販売、素材提供
 - ・修理・リサイクル・アップサイクル系の講座・講習会
 - ・不用品交換掲示板、かえっこ、フリーマーケット

「コミュニケーション(交流・ネットワーク・情報発信)～ごみを媒介に対話」

- ・ごみを媒介に祭り風イベント
- ・おもちゃのかえっこ
- ・お茶わんリサイクルをしませんか
- ・
- ・
- ・

- 【機能】
- ・広報誌の発行
 - ・カフェの運営
 - ・活動場所の提供・交流スペース
 - ・市民の活動サポート
 - ・困りごとの相談窓口
 - ・市民や団体のネットワークづくり

【エコプラザ具体的な取り組み】

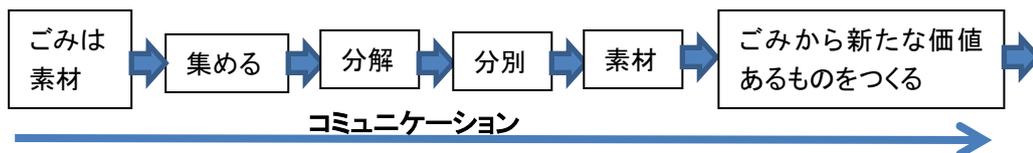
「学び(気づき・発見・共感)～環境啓発、ごみから学ぶ」

ごみから学ぶ
環境啓発 → 学び(気づき・発見・共感)

- ・体験型の見学。自分にごみになって処理される過程を体験する。ごみは臭いという強烈な体験になる。
- ・子ども達を集めて科学実験をやって関心につなげていくような工夫、情報提供も必要。
- ・小学4年生の社会科見学をきっかけに小中高大とつなげていくことが必要。
- ・子どもにアニメーション等の映像で工夫して、印象に残す。
- ・子どもたちでも地域の課題を発見して発信やアピールができ、学び合えるような仕組みを。
- ・ごみ問題に興味のない人を呼び込む工夫を（イベントやワークショップなど）

「創造(3R+アップサイクル)～ごみから新たな価値あるものをつくる」

ごみから新たな価値あるものをつくる → 創造(3R+アップサイクル)



- ・市民にごみ減量に向けた行動を促す場に。（うながす・ひろげる）
- ・リサイクル品を譲り合えるプログラムを。
- ・リサイクルフェアの開催（資源回収、フリーマーケット、リサイクルに関する各種企画）
- ・エコプラザで使う什器等は長く使える品（ロングライフデザイン）を揃え、市民に紹介。
- ・リサイクル施設での作業内容を見せたり、体験できたりするような工夫を。
- ・リサイクル工房ではリサイクルだけでなく、リユースの大切さを伝えることが重要。
- ・単に再生品を利用するだけでなく体験できるようにする（家具の修理などを教える人から、参加者自らも技術を学び、ものを作ることができる場所）。
- ・ものづくりの基礎体力を高める場所に。
- ・単なるリサイクルやリペアでなく、デザインや使い勝手の改良や、改善の相談対応を。
- ・リサイクル機能に創造的工夫を加え、学び・コミュニケーションに繋げることで啓発になる。
- ・基本的なプログラムはしっかり考えつつ、アウトプットは遊び心を持たせる。例えば、アーティストと素人が廃材を使ってリペア対決し、投票で公開評価するなど。
- ・素材とアートの結びつき、コラボレーションにより新たな価値を生み出すことができる。
- ・空き家を壊さずに有効活用できる仕組みができれば、ごみ減量になり、「若い人が住めるまち」、「壊さないで住めるまち」につながるのではないかと。
- ・空き家活用など具体的なプロジェクトを試行し、フィードバックさせるとよい。

「コミュニケーション(交流・ネットワーク・情報発信)～ごみを媒介に対話」

ごみを媒介に対話 → コミュニケーション(交流・ネットワーク・情報発信)

- ・全ての市民が利用する場に。共用スペース・貸しスペースがあるとよい。（つかう・ふれあう）
- ・ボランティアの手作りのカフェ。おしゃべりしながら情報交換、小物の手作りを教わるなど。
- ・市民のしたいことをサポートする場に。場所やファシリテーションなどを通じて市民のやりたいことを支援する市民事業ができれば。（ささえる・はぐくむ）
- ・使わなくなった品を持つ人の悩みを聞き、リペアやアップサイクルなど捨てずに活用できる方法を一緒に考える。
- ・日常の具体的な活動のサポートが必要。不要になったものの悩みを相談できる場など。
- ・エコプラザだけで目標は達成できない。ネットワークを結び発信していくことが大事だ。
- ・市内で活動している人々のネットワークの核になるものを。
- ・大学のサテライトとして学生に部室を提供し、連携を取る。
- ・クリエイターに工房スペースを貸し出して、ものづくりや地域課題に取り組んでもらう。
- ・広報誌（環境情報誌）の発行。地域のエコ活動、暮らしのエコ、エコ商品、イベントなど。
- ・広報誌に地域の出来事に関する記事を掲載（世田谷ものづくり学校の例）。
- ・幅広く人を集める方法としてイベント実施が必要。
- ・色々な問題について実行委員会などでお祭り化し、色々なパターンの人たちを集める。人が集まることで情報発信になり、人と人とのつながりも生み出せる。